

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
46

2016 皐月・水無月

2016年度 事業方針
70周年に向けて、
過去を踏まえ、
今を引き継ぐ



70周年に向けて、過去を踏まえて、 今を引き継ぐ

本教団の中長期計画を策定してから4年が経過し、来年は、少林寺拳法創始70周年を迎える。刻々と変化する社会情勢を見極めながら、本教団の発展と継承のために、「70周年に向けて、過去を踏まえて、今を引き継ぐ」というテーマを掲げて、2016年度の事業方針を定めた。

金剛禅総本山少林寺

◆本教団の目指す将来像

自己の可能性を信じ、仲間とともにダーマ信仰を確立し、老若男女を問わず、広く地域と密着したコミュニティを有し、人々の生活や将来に役立つ実践活動を推進し、皆の喜びを自分の喜びとして感じられる人の輪(和)が広がっている状況。

◆本年度の最優先課題

- ・ 門信徒の増加
- ・ コンプライアンスの徹底

重点実施項目

- (1) 道院長の支援
- (2) 門信徒増加への取り組み
- (3) 後継指導者の育成
- (4) 道院活動の点検

(1) 道院長の支援

道院長は少林寺拳法師家の代行者として、金剛禅運動を最前線で推進していく指導者です。ゆえに、(道院長個々人の実行力)と、(道院長個々の横の連携・ネットワーク)が、教団活動における最も重要な「柱」となります。

そのためには、道院長一人ひとりが、元気に、明るく、そして前向きな気持ちになることです。そのためにも、今年度は、昨年以上に本山宗務局およびエリアサポートセンターが、道院長をしっかりと支援していきます。さて、元気で活発な道院の特徴の一つに、道院長自身が「今をよとせず、常に自己向上に励んでいる」ということが挙げられます。

そのような道院長は、日々新しく、自らを進化させ続けてい

ます。指導者を育成しようとする運動の指導者であるならば、なおさら自己の研鑽(けんざん)に努め、人格、識見、その他の能力を高めていく姿勢を尊重したいものです。

そのためにも、ぜひ、本場で開催される「金剛禅講習会」を積極的にご利用ください。



12月に開催予定の「金剛禅講習会(少年育成)」では少年拳士の指導現場の活性化に向けた取り組みをご紹介します。また、2017年3月開催予定の「金剛禅講習会(教学)」では、特に「法話力(II)よりよい法話を行うのに必要な技術力」向上のための原理原則をご提供します。

ほかにも、教学に関することや、儀式の意義や実施方法を再度学習したいという道院長には、7月と3月に開催される「僧階補任講習」への受講(聴講)をお勧めします。

また、今年度は、各都道府県教区においても、道院・道院長を支援するための事業計画を立てています。各都道府県教区がそれぞれ、おのこの事業計画に沿った目標を定め、道院長の支援を図ってまいります。

また、エリアサポートセンターは、文字どおり、道院長が行う事務手続き、事務処理の負担軽減に一層努めます。

もって、道院現場において、金剛禪の布教と門信徒の教化育成、道院の充実に向けた活動に専念していただけるよう、サポート体制の強化を図ります。

まとめ

- ①道院長自身の、「今をよしとせず、学び続けよう」とする姿勢。
- ②教区・小教区による道院長への支援。
- ③事務手続きの軽減。(エリアサポートセンターの道院長への支援)

(2)門信徒増加への取り組み

現在、1万2000人の門信徒が家族で入門され、修行に励まれていますが、第2次ベビーブーム世代が40代前後の年齢にさしかかり、家族や夫婦で入門される方々の割合も多くなってきました。皆さんの道院でも、ぜひ親子入門を勧めてみてください。

門信徒の増加には、道院長の努力によるところが大きいのですが、本山事務局も道院長への後押しをすべ



く、今年1月には主に少年拳士増加に向けたリーフレットを製作し、道院長へ配布させてい

ただきました(*1)。今後さらに、新しく、家族向けのリーフレットや高年向けのリーフレットを作って、道院長へお送りする予定です。

さて、現在はインターネットの社会といわれていますが、ここ数年、我が国のインターネット普及率は80パーセントを超えています。本山のウェブサイトへの充実もさることながら、各道院のウェブサイトの導入・充実も、新規入門者の増加に向けた有効な手段といえます。事実、少林寺拳法公式ウェブサイトから「資料請求」の要望を承った数は、毎月100件以上です。

以前は、入門者の入門動機として、「護身術を習得したいから」とか、「技だけでなく、礼儀作法も身につけられるから」といったものが主流でした。しかし、昨今はこれらに加え、「金剛禪という教えに興味を持ったから」とか、「人生の指針となるものが学べそうだから」といった動機で入門される人が多くなりました。物質的・経済的に成熟した現代社会において、心の強さ、心の平安を求める人たちが増えている表れではないでしょうか。

確かに数百を数える多彩な技も魅力です。しかし、これからの時代には必ず必要とされるのは、習得した(技の多さ)よりも、人と人、あるいは人と社会と融合できる(調和の思想)を

*1 リーフレットの追加注文を承っていますので、本山事務局へご一報ください。



持った人です。

そのような人を育てるためにも、道院長が道院の内外で法話・講演を行い、「人生や日常生活を営むための生きた教え」を説いていきましょう。また、そうすることで人に活力を与え、新たな賛同者・門信徒の輪を広げていくことができます。

まとめ

- ①(見学者に対する)親子入門、家族入門の勧め。
- ②リーフレット、チラシ、道院ホームページの積極的活用。
- ③道院行事として、道院の内外へ向けた法話・講演会の実施。

(3)後継指導者の育成

現在、道院長の平均年齢が60歳ですが、金剛禪運動を継続していくために、いかに指導者の世代交代を着実に進めていくかが、喫緊の課題となっています。本山では、我が国の人口ピラミッドの変化、人々の家庭環境や労働環境の変化に応じて、道院のあり方を研究し、今後、新たな形態を提案する予定です。

道院において、道場長や助教として指導に携わっている30〜40代の若手拳士が、将来的に現在の道院を継いでいけるよう、あるいは、新たな道院を設立できるよう、本山・教区が連携してサポートいたします。

今年7月には、本山中で「金剛禪講習会(指導者)」が開催されます。この講習会では、指導者に必要とされる素養・能力を高める内容を扱いますので、ぜひ、道院の幹部拳士の方々の受講をお勧めします。

加えて、僧階への取り組みの推進も、一層の強化を図ります。ご認識のとおり、僧階は、金剛禪を布教する人のための階級制度です。したがって、次の世代へ確実に金剛禪を伝えていくためにも、僧籍編入者を増やし、それぞれが金剛禪を真に理解し、次の世代に正しく伝えていかねばなりません。近年は、僧階への関心を強くお持ちの

門信徒も多く、今年4月1日付で少導師補任を受けられた人は、過去5年間で最も多い数となりました。

『僧階教本』を基本テキストとして学習し、また、小教区の研修会などでは仲間と討議も行い、日常生活において、金剛禅の教えを拠り所として生きていくことで、自己の資質を高めていきたいものです。

以上のように、本山・教区では後継指導者の育成に向けた取り組みの、一層の強化を図ります。

まとめ

- ① 道院の新たな形態の研究・提案。
- ② 「金剛禅講習会（指導者）」、その他講習会の積極的活用。
- ③ 僧階学習への意欲的な取り組み。

(4) 道院活動の点検

本教団は、単立宗教法人であり、本山と道院が一体として成り立っています。組織機構改革の目的・方針に基づき、引き続きコンプライアンス（法令順守）を徹底し、金剛禅の教義を広め、儀式行事を行い、門信徒の教化育成を図ります。

私たちは、日々の健康的な生活を送るために、定期的に健康診断を受けます。その目的は、自覚症状のない初期

の段階で異常を発見することです。これと同様、私たち金剛禅教団が、健全な組織体として社会へ貢献してゆくためには、定期的に足元を点検する必要があります。そして、是正すべきところが発見されたならば、それを早期に改善することです。そのための自己点検、相互点検を、今年度も実施する予定です。



まとめ

- ① コンプライアンス（法令順守）を徹底する。
- ② 自己点検、相互点検を行う。

2016年度組織図





開祖語録 ダイジェスト

1973年度
整法特別講習会



万物に作用している「宇宙の存在、その力・はたらき」をまず認識し、その上で、人間である我々はどう生きるかを考える、とする捉え方です。具体的物体として、その存在を即感用しているさまざまな力やはたらき、それらを考えたり認識したりするのは可能です。一例を挙げれば、同じ蛇でも毒を持ったのを、私たち人間は毒蛇といって嫌う。が、毒蛇にも存在の意味があり、地球という環境で、彼らはいらぬ役割を持ち、生命活動を続けている。つまり、人間であれ毒蛇であれ、生命活動一つ取っても、そこには「必要だから、おのおのがそれぞれの特性を持って存在する」というこの世の成り立ちがある。人間がわざわざ毒蛇を作ったのではなく、自然界の不思議

万物に作用する 宇宙の力はたらき、 ダーマ

議が多種多様な生命を宿し、育んでいくことですね。あるいは、空間的に相隔った物体が互いに引き合う力である「引力」。これも、人間がどう思う、思わないにかかわらず、宇宙に実在する力です。また、ちょっと角度を変えていえば、悪事をする、いつかそのツケが必ず回ってくる因果応報の道理、これも人間の思考を超えて存在するんじゃないのか。長い目で物事を見たとき、無理したり強要したり、あまりにも自分本位だと、必ずバランスを崩して悪い結果を招く。何事もざっくばらんに捉えるほうだから、因果応報なんてこと

も、あえて単純に私はそう考える。私自身は、自分が確信する道理を信じ、この矛盾だらけの社会に対してだけじゃない、自分自身も変えようと努力したい。そして、おかしなことが少しくつでも正され、悪かったり強いだけが利益をむさぼり続けることのない世の中に、人間社会を一步一歩変えていきたい。また、人間関係の最小限の約束事である「人間が人間としてさまざまに隣人と仲よくする」、このことだけは何としても守りたいと考える。そして、こうした考え方に沿って行動することが、我々の提唱する「金剛禅運動」であり、「信念の確立」である。

ふだん着の 金剛禅

事務局 局長 中川 英昭

仁のある暮らし

若し人あり、仁、義、忠、孝、礼の事を尽くさざれば……と「道訓」で唱えている「仁」について掘り下げてみると、「人」が二人いて最小限の社会関係がつけられたとき、自分だけではない他者に対して、どのような関係を持つことが人間にとって生きていくうえで大切な、人間の霊性としての働きから、相手を人として尊重すること、そして、人と人が親しみ合う情愛、他者への優し

さ、思いやり、寛容、柔和な心を持つことと解され、生きていくうえで原点(人間関係の基本)と考えられるようになったという。孔子は、ある弟子の問いに対して、「仁」とは、「思いやりの心で万人を愛するとともに、利己的欲望を抑え、礼儀を履行すること。ただし、万人を愛するといっても、出発点は肉親への愛にある」と、人に對して尽くすことと、自分の内面につ

いて説いています。私は、このことから、人間関係の基本である「仁」の実践、その中から「自己確立」「自他共楽」の修行も成り立つことであり、身近な行動を振り返りながら、自分の内面について素直な心で見つめ、つい、他の者の欠点などを責めてしまったり、人の言動を受け入れられなかったりする自分を戒めながら、「仁」ある暮らしを實踐していきたいと思えます。

「皮肉骨髓の訓戒」

達磨大師は、中国の梁の時代に正法を伝えようとはるばるインドからやってきて、武帝との有名な問答で理解を得られず、梁都を去って魏の国へ行った。よく達磨図に、葦の葉に乗って川を渡る姿が描かれているのは、このときのことだという。達磨大師の弟子に、慧可、道育、尼総持、道副という四人の弟子がいた。有名な「皮肉骨髓」の訓戒というのがある。四人の弟子たちに、修行によって得られた仏教の本質・禅の要旨を問うたときの問答は、次のようであった。

「道副は『私は、文字にとらわれず、また文字をはなれないで、仏道を行います』と答えると『汝はわが皮を得たり』。と達磨はいう。

尼総持がいった。『私が理解しておりますところは、愛欲も怒りもせず、よるこびは、仏国をみるようです』

『汝はわが肉を得たり』。と達磨はいう。

ついで道育が『物を構成する地水火風の四大も、因縁がつかますと空になり、またすべての事物は、色受想行識の五蘊が仮に和合してできているので、もともと有ではなく、一法として得べきものはありません』

『汝はわが骨を得たり』。と達磨はいう。

最後に慧可が、ただ黙って達磨に礼拝して、もとの位置につく。それをみて、『汝はわが髓を得たり』。と達磨はいう。

『むかし、如来は正法眼を迦葉大士に付し、転々としてわたしに至っている。いま。お前に付すから護持しなさい』と達磨は慧可に『法信とする』といい、伝法の偈を示した（『禅とは何か』水上勉著より引用）

これらの訓戒から、達磨大師が慧可を後継者としたのは、釈尊がある日、弟子に説法しているとき、一本の花をひねって見せたが、誰もその真意が分からず沈黙していたときに、摩訶迦葉だけがにっこりと笑った。釈尊は、言葉で言い表せない奥義を理解できる者として、彼に伝法の奥義を授けた。この「拈華微笑」の故事から、他の三人が論を立て、悟りの中身を言葉で伝えようとしたのとは対照的に、慧可が黙って達磨に礼拝して元の位置についたことは、以心伝心を尊ぶ禅の不立文字の真髓を表している。慧可の命懸けの入門や、他の弟子との問答も、達磨大師が伝えようとした核の部分が後の祖師たちに相承されたが、五祖・弘忍のときに六祖・慧能を法嗣としたとき、二派に分かれた。

神秀の禅が、やがて北宗禅といわれて、「漸修漸悟」を標榜し、慧能の禅は南方方面へ広がって、「頓修頓悟」の禅を標榜するようになった。

北禅の宗風を伝承している少林寺拳法は、一段一段、階段を上るように修行を積み重ねていく「漸々修学」という修行方法であり、勝負や試合によって優劣を決めたり、他人との比較によって決めるものではない。したがって、修行の評価はあくまで修行した法の質と量と、それに伴う精神的修養度を試験により検定して定められることになっている。

そのためには、その資格に到達したからそれでよしとするのではなく、その教えを社会の中でどう実践していくかにかかっている。

日常生活の場面で、金剛禅門信徒としてふさわしい生き方をしているだろうか、行動を通して自問してみること、修行が自分の精神の根底にどっしりと根づいているのか、知識だけなのかも見えてくる。

達磨大師の教えを受け継いだ弟子たちと同じように、開祖が伝えようとした真髓を会得すべく精進し、その教えをさらに、これから続く人々たちに向けて伝えていかなければならない。



身心の改造

福岡大川道院 道院長 森山 廣平

私は、高校卒業後の進学を決めるうえで、あえて九州から遠方のところを選びました。というのも、四人姉弟で、年の離れた姉三人に私一人という家族の中で、大事に甘やかされて育てられたため、もつと自立し強くならなければという気持ちで、常日頃感じていたからです。

1966(昭和41)年、愛知県の名域大学に入學。同時に学生寮(至誠寮)に入り、そこで少林寺拳法に出会いました。この寮におられた四国出身の宇野研一先輩が、名城大学少林寺拳法部の創立者であり、寮の先輩のほとんどが、その少林寺拳法部に入部されていた関係からです。練習は厳しく、その激しさに、入部当初は百数十名いた部員も徐々に減ってしまつたほどです。

2年生に上がると演武組と乱捕り組に分けられ、私は乱捕り組に選ばれました。毎日毎日、胴とグローブを付け、殴り合い、蹴り合いの練習ばかりで、痛い足を引きずりながら学校に通つた思い出があります。練習で挫けそうになることもありましたが、仲間たちと励まし合うことでそれを乗り切り、根性も鍛えられ、精神的にも強くなり、自信もつきました。

そのころは、少林寺拳法の本質も十分に理解しておりませんでした。春の本部合宿で開祖のお話を聞くことで、教えのすばらしさに感動し、帰山す

る喜びを感じていました。技術ももちろん大事ですが、人としての道、人としてどうあるべきか、人への思いやり、さまざまなことを少林寺拳法で学びました。卒業までの四年間、少林寺拳法を続けて自分を変えることができ、本当によかつたと思っております。

卒業後(70年)はすぐに帰郷し、家業の自動車整備工場に入りました。資格を取得して、一人前の整備士、経営者を目指して頑張り、そして結婚。75年、長女の誕生を機に、念願の道院長を目指しました。ポスター貼りや修練場所の確保に走り回り、市の施設を借りることができました。3〜4人からのスタートでしたが、人づてに徐々に増え始めたためすぐに手狭になり、いろんな場所を点々としました。仕事と少林寺拳法の練習に明け暮れていましたが、どうしても専有道場が欲しくて、工場の改築と同時に2階を道場にするとという夢が実現しました。

開祖から、本堂で道院の認証書を頂いたとき、壇上で「よろしく頼んだぞ」とお声をかけていただいたことは、しっかりと肝に銘じ、忘れることはできません。

80年、開祖がご逝去され、本山のあの坂で、涙で開祖を見送りお別れをしたことも、今でもはつきりと覚えております。

道院設立から、今年で40年になります。いろん

な先生方との出会い、いろんな勉強をさせていただきました。中でも、鈴木義孝先生には、お会いしたらず「体の調子はどうですか」とお声をかけていただき、本当にありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。

開祖ご逝去後、福岡県においては、別派問題などで大変な時期が数年続きましたが、県内の道院長が一致団結して乗り越えることができました。また95(平成7)年には、福岡ドームでの少林寺拳法連盟の全国大会でも、阪神・淡路大震災の折りにもかかわらず全国からご参加いただいた皆様には、感謝、感謝の言葉しかありません。

今回の組織機構改革により、県内でも活動継続を諦めざるをえなかつた道院が幾つかありますが、この改革は、宗由貴総裁の決意と覚悟の下に成し遂げられたもので、今だからこそ、進めることが急務であつたことは理解しなければならぬと思つています。そして、そのかいあつて、金剛禅総本山少林寺の本来的姿、また開祖の思いが実現できたと思つています。

最後になります。私の人生、まだまだ半ばです。「道訓」の中の「夫婦相和し」のところが、大きな声で唱和できません。私は、他人のためは自分のため、少林寺拳法で得たものは少林寺拳法に返す、この言葉を貫き通し、自分を変えてくれたこの道を、命の続くかぎり伝えていきます。

ダイジェスト



志をつなぐ

にしむら たてお 83期生
西村 健夫 大導師大範士九段

少林寺拳法と長く関わってきた私の人生の中で、私は二年ほど、道院長を離れていた時期がありました。開祖に復帰を願い出たときに、開祖は、「いつでも帰ってこい」と、温かく迎えてくれました。そのときがあったからこそ、私は今まで道院長を続けることができたんです。晩年、開祖はよく言っていました。「人間はいつ死ぬかわからないぞ。しかし、

拳士としての誇りを持って

生きていくことも確かだよな、君たち。拳士としての誇りを持って、今、このときを大切に生きていけよ。」煌々としていた開祖のあの目は、今でも覚えていますね。高知を開拓した者の一人として、今後も、世界の平和と福祉に貢献する人づくりをしていきたいと、私は考えています。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼1956(昭和31)年、本部道院にて



ダイジェスト



道院長 vol.31 元気の素

ふしや 愛知・名古屋伏屋道院
さいとう ひろし 道院長 齋藤 宏 (34歳)

つらいときには共に悲しみ、
うれしいときには一緒に喜ぶ

道院長になるには、少林寺拳法が漠然と好きというだけでは、正直足りないと思います。いろいろなたちのご縁で生かされていることに感謝し、さらに今度は自分の番と思いい、ご縁を広げる気持ちが必要ではないでしょうか。道院長は簡単ではありません。ですが、熱い気持ちと高い意識があれば、いくらでもやり

がいと感動が得られるものだと考えます。道院を続けていく中で、つらいときには共に悲しみ、うれしいときには一緒に喜んでくれる仲間の中に感動し、「自分は一生少林寺拳法を続ける」という覚悟がより固いものとなっています。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



兵庫川辺小教区
—
研修会・合同新春
法会を開催

2015(平成27)年11月23日、兵庫川辺小教区として研修会を開催しました。当日は、同じ教区の道院長である川端哲少法師から講義を受け、僧階を持つ拳士11名が熱心に受講し、全員で僧階レポートを提出しました。年が明けて1月30日、隣接の兵庫丹有小教区と合同で新春法会を開催しました。年頭挨拶では、鈴鹿成正小教区長が、「開祖の亡くなられた年まで、私自身あと5年。残された時間で、道院長として何ができるかを毎日考えています」と述べら



れ、岸本章良小教区長が、「後継者を育てる使命を忘れず、今年も努力していきたい」と挨拶されました。(丸野俊一)

函館美原道院
—
設立30周年記念式典

設立30周年にあたり、1月24日に函館美原道院にて、新春法会ならびに記念式典を執り行いました。開祖に感銘を受けて道院を設立された岸田明彦道院長は、「お互いを認め合い、高め合う人づくりを目的としています」と話されました。今後の社会を担う幼い子供たちにとって、自分を見つめ直すきっかけになったようです。



記念祝賀会では、拳士や家族など約70名が集まり、30年を振り返るビデオ上映は、会場のみんなをくぎづけにしました。これまでの足跡を懐かしむとともに、今後の決意を胸に刻んだことでしょう。岸田道院長への記念品贈呈では、道院長のうるんだ瞳と感謝の言葉が、会場にいるすべての人の心を一つにしてくれました。(父母会会長・斎藤 修)

岐阜県教区
—
本山公認教区講習会
を開催

2月6日、岐阜メモリアルセンターにて、「教区の活性化と次期指導者の育成」を目的に、



本山公認教区講習会を開催しました。大澤隆金剛禅総本山少林寺代表、中川英昭同宗務局長(当時)を講師に招き、午後には宗由貴少林寺拳法グループ総裁にも越しいただきました。講習会は、法階講義で始まり、午後は四段以上を「苦手な技の克服」、三段以下を「相對演練と組手主体の在り方を体感する」とテーマを設け、指導いただきました。力の対立ではなく、相手と調和した動きによって崩し、技を掛けるよう、大澤代表よりご指導いただきました。技術講習後、宗由貴総裁より、「創始70周年! 今後の組織展望と拳士に望むこと」をテーマに講話をいただきました。今の日本、将来を見据えた人づくりについて話されました。(古川利雄)

岡山県教区
—
本山公認教区講習会
を開催

2月11日、岡山県で初めての本山公認教区講習会を、倉敷スポーツ公園にて行いました。講師に、川上鐘成本山教師(西陣北道院道院長)をお迎えし、県下68名の道院長・拳士が受講しました。



冒頭の法階講義では、川上先生の体験も織り交ぜてお話しされました。続いて、少導師および中導師を対象とした僧階履修科目についても、詳しくご講義いただきました。午後は、受講者を年齢別に2班に分けて、県内でもかねて指摘のあった科目を中心に、易筋行の修練に汗を流しました。

川上先生の熱弁と、受講者の熱心な受講態度が相まって、一日の講習会があつという間に終了しました。参加者全員が、金剛禅の修行のあり方を再確認できた一日となりました。(高畑 一郎)

2016年2月度 認証

●新設	東京滝野川道院	竹中 司	●道院長交代	
上富良野道院	東京昭島道院	秋山 俊之	小樽春香道院	安原 明宏
仙台西道院	藤沢東道院	和栗 研一郎	四日市富田道院	西村 忠
埼玉飯能道院	奈良宝来道院	東浦 寿成		

僧階昇任者

中導師 ■2016年2月1日付 古嶋 誠賢(野田川間道院) 木戸 英利(松山味生道院)

法階昇格者

正範士	准範士	宮澤 友明(東京西品川道院)	立花 圭(岐阜住吉道院)
■2016年3月13日付	■2016年3月13日付	小松原 哲雄(東京成瀬道院)	須川 智弘(生駒北道院)
志藤 彰人(鳥栖道院)	横山 知永(東京大塚道院)	古川 勝(中津川道院)	藤井 律子(広島八丁堀道院)

お布施

<p>婦山記念</p> <p>▷作東道院……………20,000円</p> <p>設立10周年記念</p> <p>▷熊本横島道院 道院長 濱崎 慎太郎……………30,000円</p> <p>布施</p> <p>▷大阪東住吉道院 御田 武亨……………100,000円</p> <p>▷豊田末野原道院 道院長 服部 俊美……………10,000円</p> <p>▷久留米暁道院 故・原口 和彦……………10,000円</p> <p>▷北海道教区(教区新春法会)……………30,000円</p>	<p>▷東京都教区(東京別院新春法会)……………10,000円</p> <p>公認講習会</p> <p>▷山口県教区……………100,000円</p> <p>▷熊本県教区……………30,000円</p> <p>▷岐阜県教区……………30,000円</p> <p>▷岡山県教区……………30,000円</p> <p>▷奈良県教区……………30,000円</p> <p>▷大分県教区……………30,000円</p> <p>▷静岡県教区……………30,000円</p>
--	---

2016年度婦山のご案内

◆拳士のふるさと、本山にお帰りなさい!

金剛禅への帰依・信仰を深める一助として、また親睦を深める道院行事の一環として、本山へぜひ足をお運びください。

§ 開催日：2016年度行事予定表をご確認ください。

道院長引率による道院単位の参加のほか、各種形態でも受け付けが可能です!

注目! ① 例：少年部とその保護者など、家族での参加。ご友人拳士など、少人数グループでの参加。研鑽のための個人参加……など。



少林寺拳法記念館(5畳半道場)が移築完了! 「金剛殿」も落成しました!

注目! ② 少林寺拳法発祥の5畳半道場の見学を再開しました。隣接された金剛殿もご覧いただけます。ご希望される場合は、本山・布教課までお問い合わせください。

宗道臣デーの活用について

◆5月は布教月間です!

地域に根ざした活動展開で、金剛禅の周知性が高まり、理解も深まります。

これまでと違った試みにも、ぜひチャレンジしてください。

例：地域清掃……道院単体での実施という枠を越え、自治会・町内会の清掃活動に参加する。

施設訪問……訪問もよいですが、専有道場にお招きして演武会、法話を開く。

その他、講演会やワークショップなどを主催し、地域の方に呼びかけをし、ご受講いただく……など。

編集後記▶5月は「宗道臣デー月間」です。道院や教区ごとに、地域や社会のためになる活動を行います。雑誌のコラムである方が「人のために何かをするということは、自分の時間をその人のためにあげるとのこと」と例えていました。人の話を聞いてあげるのも、時間を割いて稼いだお金を誰かのために使うのも、そういわれれば時間に換算するとわかりやすい。そして、それは自分の人生のいくらかをその人のために使うということ。半ばは他人のために——技の相手をしたり、子供たちの世話を焼いたり、相談に乗ってあげたり。道院は楽しい自他共楽の空間ですが、その延長上に、行としての「宗道臣デー」もまたあるのです。(さ)

表紙▶三野 智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年度より「ダーマ」をテーマに『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺公式サイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん | vol. 46
金剛禅総本山少林寺広報誌 | 2016 皐月・水無月

2016年5月1日発行(奇数月1日発行)
 発行人: 大澤 隆
 発行所: 金剛禅総本山少林寺
 〒764-8511
 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48
 ☎0877-33-1010
<http://www.shorinjikempo.or.jp>
 編集人: 坂下 充
 印刷・製本: (株)ブル・ドック
 広報誌「あ・うん」追加発送について ◆◆◆◆◆
 現在、広報誌「あ・うん」を、1道院につき門信徒10人以上の場合12部ずつ、9人以下の場合10部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は、本山宗務部にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。
 TEL.0877-33-1010
 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

いちごいちえ 一期一笑



イラスト/大原由軌子

水海道道院 鈴木 裕

心打たれた「本物の拳士」

昨年、9月11日の朝、「先生、道場が浸水し、太鼓や冷蔵庫が浮いています」と連絡があった。台風18号の大雨により鬼怒川が氾濫し、常総市が未曾有の被害を受け、多くの家屋が流され、浸水した。

この非常事態の中、際立った行動で地域に貢献した拳士と、その子供たちがいる。その拳士の名は山野井喜仁。彼らは今回の浸水で、幸い被害がなかったが、復興のために家業の洋ラン栽培の仕事を一時的に中断し、断水して泥の撤去に困っている市民に栽培用の水を提供することを決意。配水場所はSNSで知らせ、トラックで毎日運び、水道が復旧するまで続けた。ほかにも高圧洗浄機で泥を洗い流す、少林寺拳法ボランティアチームとも連携し、放置された山積みのゴミの撤

去、停電で真っ暗な街を毎晩深夜パトロールして、治安維持にも努めた。

山野井拳士は私が今から43年前に教師として旧・水海道市(現・常総市)に赴任し、数年後道院を設立したときに入門してきた拳士である。彼の父親(故・山野井瑛氏)も開祖の志、「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」に共感し、道院設立当初から長年後援会長として支援をいただいていた。喜仁氏も息子三人を入門させ、孫たちも祖父と父親の志をつないでいる。

私には今回の災害でボランティア活動している喜仁氏に父親の生き方が重なって見えた。また正義感、優しさ、行動力を備えた人間性にあふれる「本物の拳士」の心が三代にわたり受け継がれている姿に胸が熱くなった。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

Nio Ken, Soto oshi uke zuki



宗門の行としての少林寺拳法

仁王拳 外押受突

体重の乗った振突^{ふりづき}は、遠心力も加わって非常に力強い^{からだ}ため、身体全体を使った受けが必要になる。差替足^{さしかえあし}を用いながら体を入れて押受するが、すべてを同時に行うと力が充足せず、攻撃に負けてしまう。足、体、手捌き^{さば}の順にそれぞれのタイミングをずらし重ねることによってその効果を発揮する。数をかけて会得すること。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：富田雅志 大拳士五段 攻者：倉本巨康 准範士六段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法